

最近の行政の動き

「令和7年度石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」の結果について

消防庁特殊災害室

1 はじめに

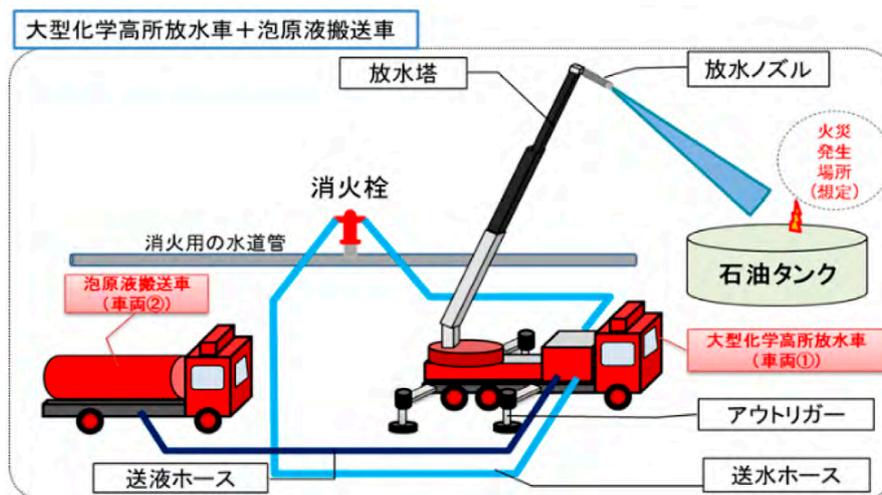
石油コンビナートで発生する事故は、危険物の漏えいや大規模な爆発を伴う火災など、甚大な被害に拡大するおそれがあることから、石油コンビナート等特別防災区域の特定事業所には、防災要員及び消防車両等を備えた自衛防災組織又は共同防災組織(以下「自衛防災組織等」という。)の設置が義務づけられています。

自衛防災組織等は特定事業所の防災体制の確立に極めて重要な役割を担っていることから、消防庁では、自衛防災組織等の防災要員の技能及び士気の向上を図り、防災体制の充実強化を目的とした「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」(以下「コンテスト」という。)を平成26年度から実施しています。

2 コンテストの概要

(1) 競技の概要

特定事業所内の石油タンクで火災が発生したという想定で、自衛防災組織等が保有する消防車両を活用して消火活動を行い、その活動の安全性、確実性、迅速性などを評価することとしています。



(2) 出場資格

全国の特定期事業所に設置されている自衛防災組織等のうち、「大型化学高所放水車及び泡原液搬送車」又は「高所放水車(大型化学高所放水車、大型高所放水車又は普通高所放水車をいう。)及び化学消防車(大型化学消防車又は甲種普通化学消防車をいう。)」を保有する自衛防災組織等を対象としており、出場する条件として、管轄する消防本部からの推薦を必要としています。

(3) 審査

令和7年5月16日付けで出場組織を募集したところ、36組織の応募がありました。今年度は8月上旬から10月上旬にかけて消防庁職員がオンライン審査又は現地審査を実施し、その後、提出された競技映像を用いビデオ審査を行いました。

3 受賞組織の決定

審査結果を踏まえ、11月11日に消防庁長官を委員長とする審査・表彰委員会を開催し最優秀賞（1組織）、優秀賞（4組織）、奨励賞（10組織）、特別賞（1組織）を決定いたしました。なお、特別賞は、今まで表彰履歴のない組織の中で技能が優秀である組織を対象としています。

受賞組織及び推薦消防本部一覧

最優秀賞（1組織）

順位	受賞組織名	推薦消防本部
1	東ソー株式会社 南陽事業所 自衛防災組織	周南市消防本部

優秀賞（4組織）

順位	受賞組織名	推薦消防本部
2	四日市臨海地区特別防災区域 共同防災組織 共同霞隊	四日市市消防本部
3	三愛オブリ株式会社 航空事業部自衛防災組織	東京消防庁
4	新居浜地区共同防災協議会	新居浜市消防本部
5	新潟東港西地区共同防災協議会	新潟市消防局

奨励賞（10組織）

順位	受賞組織名	推薦消防本部
6	新潟西港地区共同防災協議会	新潟市消防局
7	秋田地区石油コンビナート等特別防災区域協議会	秋田市消防本部
8	三井化学株式会社 大阪工場 自衛防災組織	堺市消防局
9	西部石油株式会社 山陽小野田事業所 自衛防災組織	宇部・山陽小野田消防局
10	三井化学株式会社 岩国大竹工場 自衛防災組織	岩国地区消防組合消防本部
11	石油備蓄基地共同防災組織「北海道石油共同備蓄隊」	胆振東部消防組合消防本部
12	浮島共同防災協議会	川崎市消防局
13	関西国際空港航空機給油施設自衛防災組織	泉州南広域消防本部
14	福井国家石油備蓄基地 自衛防災組織	福井市消防局
15	苫小牧地区共同防災組織（共同出光隊）	苫小牧市消防本部

特別賞（1組織）

受賞組織名	推薦消防本部
鹿島東部コンビナート共同防災組織 共同MCC隊	鹿島地方事務組合消防本部

4 表彰式

令和7年12月12日に、中央合同庁舎第二号館（総務省）地下2階講堂（東京都千代田区霞が関二丁目1番2号）において、表彰式を開催し、大沢消防庁長官から最優秀賞、優秀賞及び奨励賞を受賞した6組織に表彰状と記念品を授与しました。



受賞組織との記念撮影



最優秀賞 東ソー株式会社 南陽事業所 自衛防災組織

5 競技映像について

最優秀賞、優秀賞を受賞した組織の競技映像を、消防庁動画チャンネル（YouTube）で公開しています。指揮命令系統のしっかりとした組織的な活動や洗練された規律ある活動をご覧頂き、競技に向けた訓練だけでなく、様々な場面で活用して頂きたいと思えます。

☆消防庁動画チャンネル（YouTube）

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLUrGKEwru-bAR8rrBtd90jrOBFoKBQHEX>



コンテスト競技中の風景

6 コンテストを終えて

コンテストの審査を通じ、その競技レベルの高さに感銘を受けました。規律ある洗練された活動は、参加した全ての自衛防災組織等の皆様方が、業務の傍ら、限られた時間の中で厳しい訓練を実施してきた成果であると感じました。また、参加組織の中には迅速性のみを追求するのではなく、消防車両の自衛噴霧を操作するなど安全性に重点をおいた活動がみられ、実災害をイメージした訓練を実施されていることに参加組織の安全意識の高さを感じることができました。

本コンテストの趣旨は、防災体制の充実強化にあり、出場した全ての組織の皆様方が切磋琢磨することにより、知識、技術及び団結力が強化され、自衛防災組織の持つ力が飛躍的に向上したものと思います。今後も強化された力を維持し、万一の災害時には強靱なコンビナート防災体制の軸として活躍されることを期待しています。

最後になりますが、今年度から業務効率化を目的に、オンライン審査を導入しました。初の試みであったことから、試行錯誤した点もありましたが、関係者の皆様のご協力により、事業を円滑に運営することができました。コンテスト開催にご尽力いただいた特定事業所、都道府県、消防本部の皆様にご心より感謝申し上げます。次年度も、より多くの自衛防災組織等にご参加いただけるよう、取り組んでいきます。